

国民の口腔の健康に対するニーズ
－仮想評価法を用いた価値観評価の必要性－

伊藤 奏

What are the people's needs of oral health?

－ Assessment of subjective value by the Contingent Valuation Method －

Kanade Ito

歯科界からは日々、歯と口腔の健康の重要性について、学会や歯科医師会、行政や臨床の現場などから多面的にメッセージが発信されている。しかしながら、これらの情報がなかなか伝わらない。実際歯科健診の受診率の向上は必ずしも容易ではなく、歯科保健指導が常に期待する行動変容につながる場合だけでもない。

その原因の一つとして考えられるのが、“価値観の相違”である。歯科専門職側が考える口腔の健康の価値と、国民の考える口腔の健康の価値は同一なのか。歯科医療専門職の考える口腔の健康の価値と、国民の立場からの口腔の健康の価値とは異なる可能性がある。この“価値観”という形のないものを評価するのは容易ではない¹⁾。

口腔の健康の価値観を評価するということを考えた時に、研究により確立された「仮想評価法 (Contingent valuation method)」が有用である。仮想評価法は、市場を持たないサービスの価値を測る手法として環境経済学分野で開発された手法であり、環境の価値等についてアンケート調査を

用いて、支払意思額 (Willingness to pay) を尋ねることにより評価する²⁾。例えば喪失歯を補うことの価値を尋ねるのには、「失った歯を一本元通りにするために、いくら支払うか？」というような質問を用いて、そのサービスの価値を金額で表すことにより定量的な評価を行える。この支払意思額を用いた仮想評価法は、現在では環境経済学以外でも様々な分野において用いられている。費用便益分析として、医療サービス等の便益を測る際の評価方法として用いられる等、ヘルスケアや医療、歯科の分野においても有用な評価方法として仮想評価法が活用されている^{3, 4, 5)}。

上記の手法を用いて、国民の感じている口腔の健康の価値観を定量化し、分析することが可能となる。さらに、性別や地域、社会経済状態 (Socioeconomic status) や歯科保健行動など、様々な要因との関連を調べることで、個人の価値観を考慮した歯科保健指導や、地域性を考慮した歯科保健政策の立案を行うことが出来る。

通常の市場でも、ニーズに沿ったものを提供していかなければ、消費者に受け入れられることは難しい。このことは歯科保健医療にとっても同様であろう。国民の口腔の健康が徐々に向上してきた現代にこそ、さらなる向上のためには、国民のニーズをできるだけ客観的に把握し、そのニーズに沿った歯科保健政策や歯科保健指導などを提供していくことが重要である。一方的に歯科専門職の理想を押し付けるだけではなく、様々な人々の

【著者連絡先】

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町4番1号
東北大学大学院歯学研究科口腔保健発育学講座
国際歯科保健学分野
伊藤 奏
TEL : 022-717-7639 FAX : 022-717-7644
E-mail : kanade-i@umin.ac.jp

真のニーズを考慮した上で、理想に近づけるための戦略が必要である。

著者の研究では、全国の20歳以上70歳未満である4,992名（男性：2,500名、女性2,492名）を対象とし、国民の歯の健康に対する仮想評価法を用いた意識調査を行い、歯科医療に対する国民のニーズを測ると共に、歯の健康感に影響を与える要因を検証した。前歯部と臼歯部各々を健康に保つための支払意思額をアウトカムとし、人口統計学的要因、社会経済状況、歯科関連項目との関連について、多変量ロジスティック回帰分析を用いて検証した。多変量解析の結果、前歯部・臼歯部ともに、年齢、最終学歴、世帯収入が高い、及び、インプラント経験が有る、ブラッシングの頻度が多い群で支払意思額が高いという、統計学的有意差が見られた ($p < 0.05$)。さらに、前歯部と臼歯部の支払意思額の性差について検討した結果、臼歯部に関しては男女差が見られないものの、前歯部に関しては、女性の方が支払意思額が高い傾向が示された ($p < 0.05$)。以上より、年齢が高い人、社会経済状態が高い人、歯科保健行動が良好な人、歯科の専門性を重要視している人が歯の健康保持に対する支払意思額を高く評価する傾向が示唆された。また、性差に関しては、女性は、審美性、機能性を同等に評価するのに比べ、男性は審美性よりも機能性を重視するという価値観の性差が関連すると考えられるため、今後の歯科医療サービスを提供する際に、このような性差を含む価値観

の差を考慮していく必要があると考えられる⁶⁾。

歯科医療、口腔保健は、専門職と患者、住民との間の双方向のコミュニケーションを通じてその成果を上げるものであるため、仮想評価法のような手法を用いた分析が今後さらに求められる。

文 献

- 1) Fukai K, Yoshino K, Ohyama A, and Takaesu Y. Dental Patient Preference and Choice in Clinical Decision-Making. *Bull Tokyo Dent Coll* 2012 ; 53 (2) : 59-66.
- 2) Mitchell RC, Carson RT. Using Surveys to Value Public Goods : The Contingent Method. Washington D. C, Resources for the Future. 1989.
- 3) Sanders AE, Slade GD, Ranney LM, Jones LK, Goldstein AO. Valuation of tobacco control policies by the public in North Carolina: comparing perceived benefit with projected cost of implementation. *N C Med J* 2012 ; 73 (6) : 439-47.
- 4) Srivastava A, Feine JS, Esfandiari S. Are the people who still have their natural teeth willing to pay for mandibular two-implant overdentures. *J Investig Clin Dent* doi : 10.1111/jicd.12057. Epub 2013 Jul 16.
- 5) Oscarson N, Lindholm L, Kallestål C. The value of caries preventive care among 19-year olds using the contingent valuation method within a cost-benefit approach. *Community Dent Oral Epidemiol* 2007 ; 35 (2) : 109-17.
- 6) 伊藤 奏. 修士論文「仮想評価法を用いた国民の歯の健康に対する意識調査」(2011年, 東北大学大学院歯学研究科).